

ふるさと祭りの誇り

「笹ささの葉はすれの音ねに和す 紙のころやかな音ねのすずしさ、どんな楽器も及ばない、7月の夕べのしらべである」。「七夕と紙」と題した随筆の一節です。（『紙』作品社より）

短冊や色紙が、さらさらと風に鳴る音をなつかしく思い出します。7月7日は七夕。織り姫と彦星ひこしほが天の川を渡って年に1度会える特別な日ひで逢瀬あわせを遂げています。

「願いの糸」という言葉があります。中国では七夕にクモを小箱に入れ、糸の網で吉兆を占っていました。和紙で作った紙繰りこよで短冊や細かく切った色紙を飾るのは「願いの糸」の名残りです。「願いの糸」は「五色の糸」とも言います。とりわけ子どもたちの願いの糸は虹のような楽しい糸に違いありません。短冊に願い事を書いて笹ささに飾る風習は、江戸時代から始まりまし

た。学校や幼稚園、保育園、介護施設では、無数の願いの糸が揺らめいています。「サッカ―選手に：」「友達となかよく：」「ピアノが上手に：」「健康になりますように：」「早く家族と一緒に暮らせるように：」といった短冊に込められたそれぞれの夢を、五色の糸には叶えてほしいと願っています。「汝なんじが為の 願の糸と誰か知る」大事な人のため、そっと願いを込める糸もあります。短冊のさらさらと鳴る音、葉はすれに和す七夕飾りの軽やかな音に耳を澄ませたいものです。

さて、梅雨が明けると本格的な夏の到来です。7月に入ると各地区で六月灯も始まります。「ロッカッドー」と聞くだけで、子どもころは心が躍ったものです。

指宿では、今でもそれぞれ

の地区で六月灯が行われていますが、とても素晴らしいことだと思えます。子どもたちの夢や郷土愛を育むためにも大切にしたい行事です。

祭りやイベントについては、その経済効果が論じられがちですが、大切なことはそれによって生み出される住民のエネルギーや連帯の絆だと思えます。山川みなと祭り、開聞そうめん夏祭り、そして指宿温泉祭。いずれも人間的温かさあたたかさに溢れた情緒を持っています。その秘密は、祭りによる絆や連帯がしっかりとしており、一人ひとりがそこに住む誇りを持っているからだと思えます。

「ふるさとの祭り。私の誇り」妙に素直になれる祭りのところところです。

指宿市長 豊留悦男

